

Quality is more than a word

ESPEC



第 **58** 期

## 中間株主通信

---

平成22年4月1日から平成22年9月30日まで



## 目次

株主のみなさまへ:TOP MESSAGE	1
TOPICS	3
株主アンケート結果のご報告	5
連結業績の推移	6
部門別概況	7
要約財務諸表(連結)	9
会社の概要・役員	11
株式の状況・株主メモ	12

## 株主のみなさまへ

みなさまにおかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

第58期中間株主通信をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。



代表取締役社長

進 信義

## 当第2四半期累計期間の業績

当第2四半期累計期間のわが国経済は、政府の緊急経済対策やアジアなどの新興国の経済成長により、一時は景気の回復が進みましたが、急激な円高進行などにより、再び先行きの不透明感が増してまいりました。当社の主要顧客におきましては、半導体や電池などの好調市場において積極的な設備投資が行われ、電子部品・電子機器メーカーにおいても、開発投資が再開されました。

こうした状況の中、当社は連結子会社2社との合併によるシナジーの最大化を図るべく、機器販売・アフターサービス・受託試験のトータル提案を行うなど営業機能を強化したことにより、受注高・売上高ともに前年同期比で大幅に増加いたしました。

また利益面につきましても、売上高の増加および前期より推し進めている収益構造改革により、大幅に改善し、黒字転換することができました。

	前第2四半期累計 【第57期】 (百万円)	当第2四半期累計 【第58期】 (百万円)	増減率 (%)
受 注 高	10,480	15,101	44.1
売 上 高	9,433	12,916	36.9
営 業 利 益	△1,289	550	—
経 常 利 益	△1,229	680	—
四半期純利益	△1,365	776	—

## 連結業績

## 経営戦略・施策の進捗

当社グループは「総合力の結集・革新による圧倒的な事業競争力の確立」という基本方針のもと、当社と子会社2社との合併によるシナジーの最大化を図り、企業価値の高度化を目指しております。

当第2四半期累計期間においては、省エネなど顧客ニーズに対応した新製品を市場投入するとともに、製品販売とサービスの融合による営業機能の強化を図ってまいりました。

また、香港にある関係会社を中国・アジア関係会社の管理・統括を行う拠点と位置づけ、体制の整備を進めてまいりました。成長に向けた新たな事業領域の拡大としては、植物工場を収益基盤として早期に立ち上げるべく事業体制を強化いたしました。

## 株主のみなさまへの利益還元

当社は、株主のみなさまへの利益還元を経営の重要課題の一つと認識しております。

中間配当につきましては、1株当たり5円とさせていただきます。株主のみなさまにおかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 新製品の発売

当第2四半期累計期間に発売いたしました新製品の一部をご紹介します。

### 冷熱衝撃装置「TSAシリーズ Eタイプ」

高温と低温の急激な温度差によるストレスを繰り返し試料に与えることにより、温度変化に対する耐性を短時間で評価する冷熱衝撃試験。当社はこの試験を行う冷熱衝撃装置において、平成22年9月、従来器比で最大37%省エネ<sup>※1</sup>となる「TSAシリーズ Eタイプ」を発売いたしました。

本装置は、カーエレクトロニクスやはんだ実装性評価などで主流となっている冷熱衝撃試験（-40℃～+125℃ 2ゾーン）に十分な能力を持ちながら、冷凍回路の改良と最適な予冷・予熱設定の自動化により、消費電力量の大幅な削減を実現いたしました。

最大 **37%**  
省エネ



冷熱衝撃装置「TSAシリーズ Eタイプ」

### ライトスペック恒温（恒湿）器

平成22年6月、実験室や研究室などでの使用に最適な「ライトスペック恒温（恒湿）器」を発売いたしました。装置のサイズや温度（湿度）制御範囲に応じて全6器種をラインアップ。すべての器種で100Vの電圧に対応するなど、幅広い用途にお応えします。

### 高温高湿器 エコモデル

平成22年6月、大幅な省エネを実現した「高温高湿器 エコモデル」を発売いたしました。冷凍機を搭載せず、フロンガスを使用しないヒートパイプによる冷却方式の採用で、消費電力量を温度運転（60℃）で最大70%、温湿度運転（85℃／85%rh）で最大60%削減いたしました。<sup>※2</sup>高温高湿域での定値連続運転に適しています。

最大 **70%**  
省エネ



高温高湿器 エコモデル

※1) TSAシリーズ Sタイプ（通常運転）比較、当社指定試験条件での計測

※2) プラチナスKシリーズ 従来モデル3型同等品比較

## 植物工場事業の 本格展開に向けて

「植物工場」は、植物の育成に必要な光、温湿度、養分などを最適にコントロールして植物を育てるものですが、当社は環境試験器で培った「人工的に環境をコントロールする技術」を活かし、20年以上前から手がけております。これまで、子会社のエスベックミック株式会社が森づくり事業などで培った「自然環境創造技術」と当社の「人工的に環境をコントロールする技術」を活かして植物工場を提供してまいりましたが、昨今の「食の安全」に対する消費者の意識の高まりと行政の「食料自給率向上と安定供給」の推進を受け、積極的な展開を図ることにいたしました。平成22年10月にエスベック株式会社本体組織に植物工場事業部を新設し、新たな基盤事業として早期立ち上げを目指してまいります。

そのためのステップとして、同月、野菜の生簀（いけす）ともいうべきディスプレイ用の野菜育成装置「プラントセラー」

を発売いたしました。本装置をレストランなどに設置することで、自産自消の新鮮で安全な野菜を多くの方に味わっていただき、植物工場の認知度向上を図ってまいります。



野菜育成装置「プラントセラー」

## 上海万博出展の 植物工場への技術協力

中国・上海国際博覧会（上海万博）の大阪館に大阪府立大学が出展した植物工場において、子会社のエスベックミック株式会社が植物の育成環境を人工的に制御する技術を提供いたしました（設計製作：株式会社椿本チエイン）。この最先端の技術が詰まった完全制御型の植物工場は、大変多くの来場者の関心を集めました。



上海万博・大阪館展示 植物工場

# 株主アンケート結果のご報告

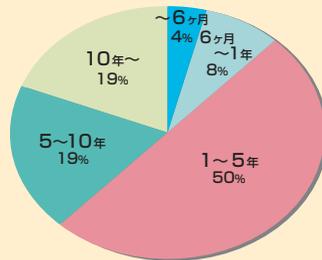
第57期株主通信のアンケートでは大変多くの株主さまからご回答をいただきました。ご協力いただきましたみなさまに対し、厚くお礼申し上げます。この度いただいたご意見を真摯に受け止め、今後の経営やIR活動に反映させていきたいと考えております。ここに、その集計結果とお寄せいただきましたご意見の一部をご紹介します。

アンケート送付総数  
**6,142名**

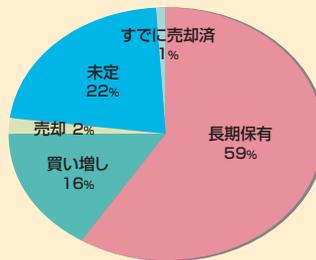
ご回答数  
**1,361名**  
(男性:76% 女性:24%)

返却率  
**22.2%**

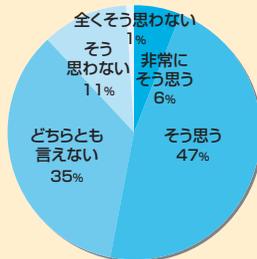
## 当社株式の保有期間



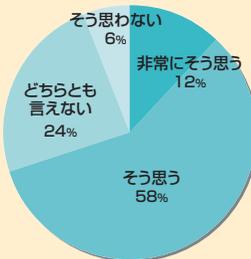
## 当社株式の投資スタンス



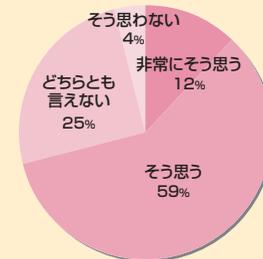
## 当社に対するイメージ



安定性がある



成長性がある



研究開発力がある

株主さまからの声

### 新技術・新製品開発に力を入れてほしい。

当社は、開発体制の強化を図るなど新製品の開発を推進しており、これまでに省エネ等、顧客ニーズに合った製品を開発してまいりました。引き続き新製品の開発に積極的に取り組んでまいります。(新製品につきましては、本誌P3をご参照ください)

### 新分野への挑戦に期待している。

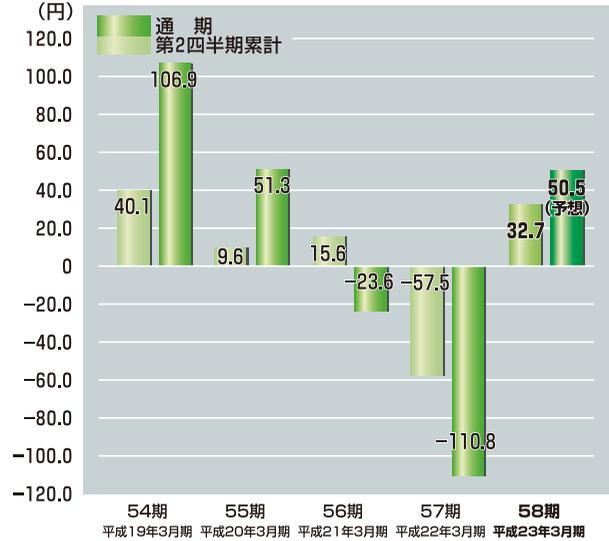
平成22年10月より、植物工場事業部を新設し、取組みを開始いたしました。今後も当社は、みなさまのご期待に応えられるよう、成長に向けた新たな事業領域の拡大に努めてまいります。(植物工場事業につきましては、本誌P4をご参照ください)

# 連結業績の推移

## 売上高



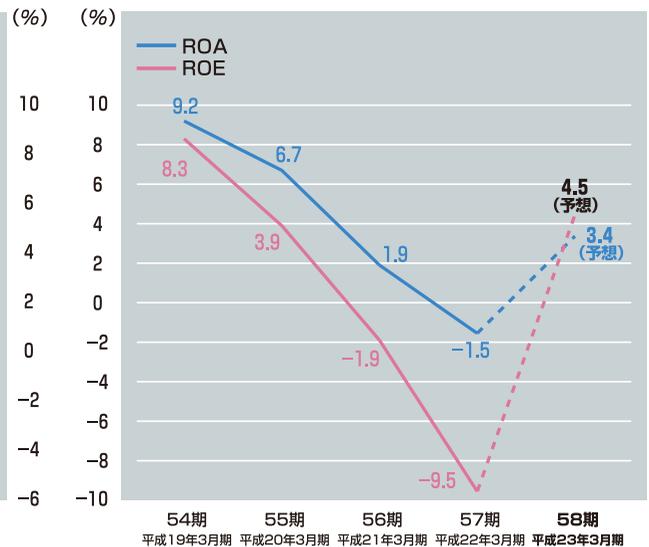
## 1株当たり当期純利益



## 営業利益／営業利益率



## 総資産経常利益率 [ROA] 自己資本利益率 [ROE]



## 事業セグメント区分の変更について

今年4月、当社はエスペックエンジニアリング株式会社とエスペックテストセンター株式会社の連結子会社2社を吸収合併しましたが、それに伴い、事業規模と重要性の観点から事業セグメント区分を変更しました。

従来、「環境試験事業」、「電子デバイス装置事業」の製品種別としていましたが、「装置事業」、「サービス事業」の事業形態別に変更することとしました。半導体関連装置・FPD(フラットパネルディスプレイ)関連装置につきましては、カスタム仕様製品として捉えて環境試験器と同様の「装置事業」に含め、アフターサービス・エンジニアリングや受託試験・レンタルにつきましては、「装置事業」の機器販売とは事業形態が異なるため、「サービス事業」として編成することとしました。

	受注高	売上高	営業利益
装置事業	11,996	10,284	433
サービス事業	2,711	2,322	147
その他事業	463	381	△32
連結消去	△68	△71	1
計	15,101	12,916	550

当第2四半期累計期間 セグメント別業績

### 装置事業

#### ■ 事業内容

自動車・電気電子機器・通信機器などの電子部品において、温度や湿度、その他環境因子による影響を試験する環境試験器を提供しています。また、半導体検査工程におけるバーンイン装置や半導体・電子部品などの電気的特性を評価する計測システム、液晶などのFPDの生産ラインにおける熱処理装置および検査装置等、カスタム仕様製品を提供しています。

#### ■ 業績の状況

環境試験器につきましては、国内市場においては、エネルギー分野でのカスタム仕様製品への対応を強化するとともに、既存顧客に対して省エネモデルへの買い換えを促進し、海外市場においては、好調な中国やアジア新興国市場における販売を強化するとともに、韓国・台湾での新規顧客開拓に注力しました。こうした結果、受注高・売上高は、電池関連や電子部品・電子機器を中心に伸長し、前年同期比で大幅に増加しました。利益面につきましても黒字化することができました。

半導体関連装置につきましては、半導体メーカー向けのバーンイン装置の受注・売上が急増し、また、子会社であるエスペックテクノ株式会社の二次電池検査装置の売上が堅調に推移したため、受注高・売上高ともに前年同期比で大幅な増加となりました。

営業利益につきましても、売上高の増加により黒字に転換しました。FPD関連装置につきましては、タクトアップなどを目的とした既納品の改造提案を行ったことにより、受注高・売上高は前年同期比で増加しました。利益面につきましては、第2四半期会計期間では黒字化しましたものの、累計期間では営業損失となりました。こうした結果、装置事業全体では、受注高は11,996百万円、売上高は10,284百万円、営業利益は433百万円となりました。



バーニン装置

## サービス事業

### ■ 事業内容

製品のアフターサービスやエンジニアリング、試験を代行する受託試験、製品レンタルなどさまざまなサービスを提供しています。

### ■ 業績の状況

アフターサービス・エンジニアリングにつきましては、新たなサービスキャンペーンを展開して保守契約の獲得に努めるとともに、既納品の省エネ改作や通信ネットワーク商品を開発・提案しました。こうした取組みの結果、受注高・売上高ともに前年

同期比で増加しました。営業利益につきましては、サービス要員の増強により人件費が増加したものの、経費削減などにより前年同期と同水準を確保しました。受託試験・レンタルにつきましては、顧客ニーズに対応した新しい試験メニューを開発・提案しましたが、受注高・売上高ともに前年同期比で減少しました。しかしながら、利益面につきましては、固定費削減効果により前年同期比で大幅に改善しました。こうした結果、サービス事業全体では、受注高は2,711百万円、売上高は2,322百万円、営業利益は147百万円となりました。

## その他事業

### ■ 事業内容

森づくりや水辺づくり、都市緑化などの環境エンジニアリング事業や、野菜育成装置などの提供を行う植物工場事業を行っています。

### ■ 業績の状況

子会社であるエスペックミック株式会社の植物工場が引続き好調に推移したことにより、受注高は前年同期比で増加し463百万円となりましたが、売上高は森づくり・水辺づくりなどが低調であったため、前年同期と同水準の381百万円となりました。利益面につきましては、植物工場の販促費用などの増加により、32百万円の営業損失となりました。

# 要約財務諸表（連結）

## 四半期連結貸借対照表

科目	前第2四半期末 平成21年9月30日	当第2四半期末 平成22年9月30日	前期末 平成22年3月31日
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>	22,160	23,921	22,828
現金及び預金	6,571	7,287	7,569
受取手形及び売掛金	8,703	9,462	9,886
有価証券	1,900	2,801	1,800
商品及び製品	235	259	155
仕掛品	2,089	1,545	1,102
原材料及び貯蔵品	1,044	989	974
その他	1,636	1,589	1,357
貸倒引当金	△ 21	△ 13	△ 19
<b>固定資産</b>	13,204	11,469	12,008
<b>有形固定資産</b>	8,944	8,334	8,483
建物及び構築物（純額）	3,731	3,318	3,454
土地	4,435	4,424	4,428
その他（純額）	777	592	601
<b>無形固定資産</b>	545	326	425
<b>投資その他の資産</b>	3,713	2,808	3,099
<b>1 資産合計</b>	<b>35,364</b>	<b>35,390</b>	<b>34,837</b>

(注) 有形固定資産の減価償却累計額

	前第2四半期末	当第2四半期末	前期末
	9,074百万円	9,234百万円	9,039百万円

**1** 総資産は35,390百万円で、前期末と比べ553百万円の増加となりました。その主な要因は、現金及び預金の減少281百万円、受取手形及び売掛金の減少424百万円、有価証券の増加1,000百万円、仕掛品の増加442百万円、投資その他の資産の減少291百万円などによるものです。

(百万円)

科目	前第2四半期末 平成21年9月30日	当第2四半期末 平成22年9月30日	前期末 平成22年3月31日
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>	5,401	6,548	6,302
支払手形及び買掛金	2,808	4,537	3,928
短期借入金	389	250	180
賞与引当金	251	216	229
製品保証引当金	120	141	136
その他	1,831	1,402	1,826
<b>固定負債</b>	1,907	1,809	1,896
長期借入金	214	188	201
退職給付引当金	75	55	74
その他	1,617	1,565	1,620
<b>2 負債合計</b>	<b>7,309</b>	<b>8,357</b>	<b>8,199</b>
<b>純資産の部</b>			
<b>株主資本</b>	29,226	28,549	27,844
資本金	6,895	6,895	6,895
資本剰余金	7,172	7,172	7,172
利益剰余金	15,211	14,534	13,829
自己株式	△ 53	△ 53	△ 53
<b>評価・換算差額等</b>	△ 1,336	△ 1,682	△ 1,376
その他有価証券評価差額金	156	23	197
繰延ヘッジ損益	△ 1	△ 5	△ 2
土地再評価差額金	△ 824	△ 826	△ 826
為替換算調整勘定	△ 668	△ 873	△ 745
少数株主持分	165	166	169
<b>3 純資産合計</b>	<b>28,054</b>	<b>27,033</b>	<b>26,637</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>35,364</b>	<b>35,390</b>	<b>34,837</b>

**2** 負債は8,357百万円で前期末と比べ157百万円の増加となりました。その主な要因は、支払手形及び買掛金の増加608百万円、その他流動負債の減少424百万円、その他固定負債の減少55百万円などによるものです。

**3** 純資産は27,033百万円で前期末と比べ 395百万円の増加となり、その主な要因は利益剰余金の増加704百万円、その他有価証券評価差額金の減少174百万円、為替換算調整勘定の減少128百万円などによるものです。

## 四半期連結損益計算書

(百万円)

科目	前第2四半期累計 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	当第2四半期累計 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	前期 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで
売上高	9,433	12,916	23,775
売上原価	7,103	8,792	17,148
売上総利益	2,330	4,124	6,626
販売費及び一般管理費	3,619	3,574	7,365
<b>4 営業利益又は営業損失</b>	<b>△ 1,289</b>	<b>550</b>	<b>△ 738</b>
営業外収益	137	184	270
営業外費用	77	54	97
経常利益又は経常損失	△ 1,229	680	△ 565
特別利益	5	38	1
特別損失	103	62	953
税金等調整前四半期純利益 又は四半期(当期)純損失	△ 1,327	656	△ 1,517
法人税、住民税及び事業税	44	△ 122	1,108
少数株主利益又は少数株主損失	△ 6	3	4
<b>4 四半期純利益又は四半期(当期)純損失</b>	<b>△ 1,365</b>	<b>776</b>	<b>△ 2,630</b>

**4** 当社の主要顧客におきましては、半導体や電池などの好調市場において積極的な設備投資が行われ、電子部品・電子機器メーカーにおいても、開発投資が再開されました。こうした状況の中、当社は子会社2社との合併によるシナジーの最大化を図るべく、機器販売・アフターサービス・受託試験のトータル提案を行うなど営業機能を強化したことにより、売上高は前年同四半期連結累計期間比で増加しました。利益面につきましては、前年同四半期連結累計期間は赤字でしたが、売上高の増加と前期より推し進めている収益構造改革により大幅に改善し、営業利益、四半期純利益ともに黒字転換しました。

**5** 税金等調整前四半期純利益 656百万円やたな卸資産の増加により資金の減少があったものの、仕入債務の増加などにより、852百万円の資金収入となりました。

**6** 有形及び無形固定資産の取得などにより、80百万円の資金の減少となりました。

**7** 短期借入金の返済などにより、11百万円の資金の減少となりました。

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科目	前第2四半期累計 平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	当第2四半期累計 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで	前期 平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期純利益 又は四半期(当期)純損失	△ 1,327	656	△ 1,517
減価償却費	444	371	876
売上債権の増減額	3,968	381	2,732
たな卸資産の増減額	△ 36	△ 669	1,064
仕入債務の増減額	△ 1,715	636	△ 569
その他	△ 166	△ 523	84
<b>5 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,165</b>	<b>852</b>	<b>2,670</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出	△ 30	—	△ 30
定期預金の払戻による収入	218	—	239
信託受益権の取得による支出	△ 547	△ 965	△ 1,403
信託受益権の償還による収入	800	899	1,403
有形及び無形固定資産の取得による支出	△ 272	△ 66	△ 344
有形及び無形固定資産の売却による収入	0	0	1
投資有価証券の取得による支出	△ 2	△ 2	△ 5
その他	2	52	11
<b>6 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>167</b>	<b>△ 80</b>	<b>△ 128</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入れによる収入	558	330	964
短期借入金の返済による支出	△ 730	△ 260	△ 1,345
長期借入金の返済による支出	△ 5	△ 5	△ 11
配当金の支払額	△ 119	△ 71	△ 236
その他	△ 26	△ 4	△ 89
<b>7 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 324</b>	<b>△ 11</b>	<b>△ 718</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	51	△ 43	17
現金及び現金同等物の増減額	1,059	716	1,841
現金及び現金同等物の期首残高	7,533	9,374	7,533
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	8,593	10,091	9,374

会社の概要（平成22年9月30日現在）

社 名	エスベック株式会社
英 文 社 名	ESPEC CORP.
創 業 設 立	昭和22年7月25日 昭和29年1月13日
資 本 金	6,895百万円
従 業 員 数	1,301名(連結) 876名(単独)
U R L	<a href="http://www.espec.co.jp/">http://www.espec.co.jp/</a>
主 な 事 業 所	
本 社	大阪市北区天神橋3丁目5番6号
営 業 拠 点	首都圏オフィス・仙台・熊谷・名古屋 大阪・広島・福岡
工場その他事業所	福知山・宇都宮・神戸
子会社および 関 連 会 社	エスベックテクノ株式会社 エスベック九州株式会社 エスベックミック株式会社 株式会社ミックファーム大口 ESPEC NORTH AMERICA, INC. ESPEC EUROPE GmbH 上海愛斯佩克環境設備有限公司 広州愛斯佩克環境儀器有限公司 愛斯佩克環境儀器(上海)有限公司 愛斯佩克測試科技(上海)有限公司 ESPEC (CHINA) LTD. ESPEC KOREA CORP. ESPEC (MALAYSIA) SDN.BHD.

(注)

平成22年4月1日付でエスベックエンジニアリング株式会社およびエスベックテストセンター株式会社を吸収合併しました。

役員（平成22年9月30日現在）

代表取締役社長	進 信 義
常 務 取 締 役	檜 作 榮四郎
常 務 取 締 役	石 田 雅 昭
常 務 取 締 役	廣 信 義
取 締 役	島 田 種 雄
取 締 役	石 井 邦 和
取 締 役	内 藤 正 久
常 勤 監 査 役	新 田 廣 治
常 勤 監 査 役	松 南 雅 己
監 査 役	松 村 安 之
監 査 役	村 瀬 一 郎

(注)

1. 取締役 内藤正久氏は、社外取締役です。
2. 監査役 松村安之氏および村瀬一郎氏は、社外監査役です。

---

名 誉 会 長 小 山 栄 一

# 株 式 の 状 況 ・ 株 主 メ モ

## 株式の状況（平成22年9月30日現在）

会社が発行する株式の総数	80,000,000株
発行済株式の総数	23,731,060株 (自己株式50,334株を除く)
株主数	6,230名

## 大株主

株主名	持株数 千株	出資比率 %
日本ラスティサービス信託銀行株式会社(信託)	1,506	6.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託)	1,401	5.89
エスペック取引先持株会	1,365	5.74
日本生命保険相互会社	929	3.91
エスペック従業員持株会	715	3.00
株式会社みずほコーポレート銀行	713	3.00
第一生命保険株式会社	546	2.29

## 所有者別分布状況



## 株価・出来高の推移



## 株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
中間配当制度	有
基準日	3月31日および取締役会決議によってあらかじめ公告して臨時に定めた日
株式上場取引所	東京・大阪証券取引所(証券コード:6859)
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲1丁目2番1号
事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

電話お問合せ先 0120-288-324

取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店  
みずほインベスターズ証券株式会社  
本店および全国各支店

公告方法 電子公告  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。なお、電子公告は当社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。  
<http://www.espec.co.jp/corporate/ir/koukoku/>

お問合せ先 エスペック株式会社  
総務人事部 総務グループ  
Tel : 06-6358-8820 Fax : 06-6358-5500  
e-mail : ir-div@espec.co.jp

証券コード:6859

エスペック株式会社

